

◆編集・解説

高野 邦夫
(前八戸工業大学教授)

◆史料解題

原 剛
(防衛庁防衛研究所研究員)

◆体裁

B5判上製クロス装函入
全12巻・各巻平均約470頁
総5624頁

◆全巻揃定価

定価315,000円
(本体300,000円+税5%) 分売不可
限定100セット

【本史料集の特長・特色】

壱)

民主主義への反動として否定されるにすぎなかつた軍隊教育。その実態に迫るために未刊行基本史料(刊行済一部含む)を復刻。

明治建軍期から、第二次大戦末期の帝国陸海軍崩壊期まで、陸海軍主要学校別に通史と教育理論双方を追えるよう配慮した構成。

「明治百年記念復刻叢書」(原書房)に収められた復刻基本史料などとあわせて、「統帥参考書草案第三案其第一編一般統帥」「統帥参考書草案其第二第八章会戦」など、超一級新史料も収録。

旧帝大に唯一対抗し得た、國家エリートの選抜・教育機関、帝国陸海軍将校養成学校長年の桎梏から解き放たれ注目を集め、軍隊教育研究の基本史料を集成。

儒教か、武士道か、現代日本人のエートスと日本型公教育の底流を新たに探る。

しかし、戦後のタブー視と、資料の多くが敗戦時に焼却・没収されるという制約の中で、丸山真男らが貴重な指摘を残してきたにもかかわらず、軍隊教育研究は大きな遅れを取つてきました。本史料集は、米国返還資料と個人寄贈を中心とする防衛庁防衛研究所図書館所蔵の陸海軍公文書史料を骨格とし、さらに野間教育研究所、偕行文庫、及び個人蔵の史料を厳選付加し、帝国陸海軍の人材養成とイデオロギー教育の実態を示す一次資料を復刻収録したもので、そのほとんどが未公刊です。

これらの制度化された軍隊教育を受けたエリートが、戦前のみならず、戦後日本の各所において指導力を發揮したことと論を俟たず、現代社会の特質を考察するうえでも重要な史料と言えます。

本史料集が、教育史、軍事史のみならず歴史学、社会学、法学、政治学などの幅広い分野で注目を集めるものと信じる所以です。

近代日本 軍隊教育史料集成(全12巻)



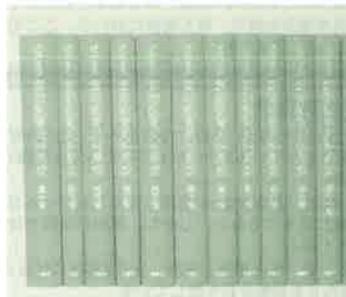
柏書房

〒113-0021 東京都文京区本駒込1-13-14
TEL.03-3947-8251 FAX.03-3947-8255
URL: <http://www.kashiwashobo.co.jp>
E-mail: eigyo@kashiwashobo.co.jp

お奨めします

取扱店

- 教育学
- 政治学
- 社会学
- 法学
- 哲學



推薦します (五十音順・敬称略)

近代を再考する史料の宝庫、軍隊教育

京都大学大学院教育学研究科助教授

佐藤 卓己
SATO Takumi

軍隊と学校と工場は、「規律=訓練」(ディシpline)装置として「近代化」の象徴である。また、軍艦、飛行機から通信、輸送まで近代軍隊は、テクノロジー・システムである。それゆえ総力戦の技術と精神を体系化した軍隊教育は、近代を再考する史料の宝庫である。「国民皆兵」と「良兵良民」の理念を掲げた近代日本では、軍隊の平時業務とは「国民教育」であった。軍隊教育史料集成がそれと不可分な社会教育・メディア教育の研究にも大きく寄与する所以である。

日本の政治・外交に関与した将校養成教育

千葉大学名誉教授

城丸 章夫
SHIROMARU Fumio

高野邦夫氏は、陸軍と海軍の双方にわたって、軍隊教育を熱心に研究しておられます。今回、戦前の陸海軍の学校についての基礎的史料を収集・選択して発刊されました。

戦前の日本の軍隊では、兵営生活から教練演習までのすべてが、同時に軍隊教育そのものだと考えられています。ところが同じ軍隊教育でも、将校の養成は兵営外の学校で行われました。将校は天皇の統帥権と「教え」の執行者であり、やがては日本の政治・外交・教育を動かすだろう存在だからです。

そしてこれは、将校の識見と人格とを決定した軍の学校の研究の重要さを示すものです。本史料集を推せん申しあげるゆえんです。

戦前・戦後国民形成史への活用にも期待

東京大学名誉教授・
民主教育研究所代表堀尾 輝久
HORIO Teruhisa

高野さんの長年に亘る執念の研究の第一段として、軍隊教育史料集が出版されることをよろこびたい。私たち戦中・戦後世代の少年期・青年期には、陸海軍のエリート養成学校(陸幼・海兵等)は憧れの的であった。戦後はその評価は一変するが、それだけに、軍学校の実態、それが果した国民教育全体にとっての役割・意義については不明のことが多く、しかも教育史研究の視野からもはずされてきた。本史料集は軍事史はもとより、戦前・戦後の国民形成史の観点からも、大いに活用されることを期待したい。

下士官関係の史料が多いことも喜ばしい

一橋大学大学院社会学研究科教授

吉田 裕
YOSHIDA Yutaka

ここ十数年ほどの間に、軍事史研究は大きな進展をみせたが、その推進力の一つは、教育史研究の立場からする軍隊教育史研究である。今回、刊行されることになったこの史料集は、そうした研究の発展を踏まえて編纂されたものだが、旧帝国陸海軍の将校教育に関する重要な史料を系統的に収録しており、今後の軍事史研究の発展にとって大きな刺激となるだろう。また、個人的には、下士官(少年兵)関係の史料が多いことも喜ばしいことだ。

柏書房の関連史料

文部省編 時局に関する教育資料(全15巻)

山之内靖・監修 大内裕和・解題

A5判上製・函入 総8298頁 定価294,000円(本体280,000円+税)

第一次欧州大戦が生んだ総力戦体制を日本に打ちたてるために編集・翻訳された、文部省内部の教育政策資料を復刻。戦闘員と非戦闘員の区別があいまいになり、前線と銃後の境界が失われる戦争、すなわち総力戦。国民という「資源」の活用効率化を教育政策から目指すため、阿部重孝を含む文部省普通学務局調査委員会が編んだ多彩な欧米資料を初めて公刊。80年前の「現代」がここによみがえる。

日本海軍士官総覧

(財)海軍義理会編海軍義理会員名簿
(昭和十七年七月一日調)・復刻版戸高一成・監修
A5判上製・函入 1547頁 定価33,600円(本体32,000円+税)

総勢1万9300人余。明治初年より昭和17年4月1日までに任官した海軍士官名を貴重な個人情報とともにすべて収録。現存する、最も完全に近い旧帝国海軍全士官名簿。

軍隊教育とは、近代国家の目的と合理性を追求した、理念の国民教育

合		軍		海		軍		陸		年	第一學年	第二學年	第三學年	合	計	
計	豫備役	豫備役	現役	退役	豫備役	現役	豫備役	現役	將校	准士官以下	准士官以下	准士官以下	校	校		
	准士官以下	將校	准士官以下	准士官以下	准士官以下	校	校	五	九							
	校	校	校	校	校	校	校	校	將校	准士官以下	准士官以下	准士官以下	校	校	一五	一六
	校	校	校	校	校	校	校	校	將校	准士官以下	准士官以下	准士官以下	校	校	六〇	六〇
	校	校	校	校	校	校	校	校	將校	准士官以下	准士官以下	准士官以下	校	校	一一二	一一二
	校	校	校	校	校	校	校	校	將校	准士官以下	准士官以下	准士官以下	校	校	七	七
															60	60

★陸軍「広島陸軍幼年学校」生徒父兄職業（軍人）調査表 平和十七年九月調

第十 指揮官ハ火力、制空力等戦場ノシテ之ガ對策ヲ研究、創意シ熾烈ナル砲弾瓦斯攻撃等激烈淒惨ナル情景ニ對處シテ之ヲ凌駕、壓倒スペキ手段ヲ講ジ観テスルヲ要ス

第十一 決戦間傷病者ハ後送セザルヲ大負傷者ニ對スル最大ノ戰友道ハ速力ニニルヲ銘肝シ敵撃滅ノ一途ニ邁進スルヲ要附添ハ之ヲ認メズ

★陸軍幼年学校生徒データ

「広島陸軍幼年学校歴史」より、「生徒状況参考資料(昭和17年)」。第44~46期生徒の父兄職業調査や出身府県、戦死者数など様々なデータを収める。例えば、父兄が軍人は19.7%を占め、また生徒最多出身県は鹿児島であることが分かる【第二卷】

陸軍諸學校歷史

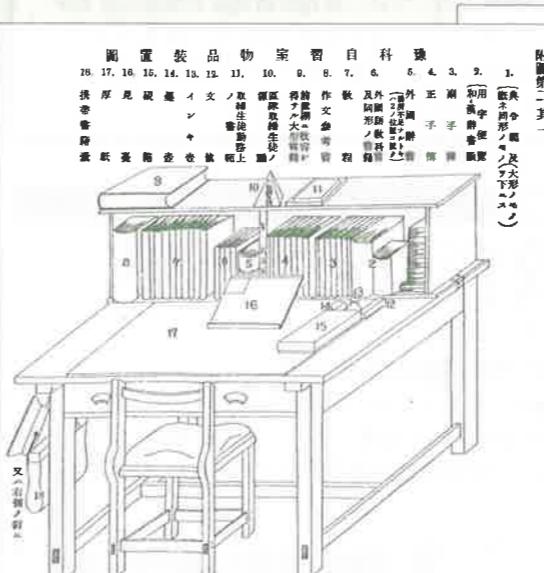
防衛研修所戦史

★陸軍諸学校基礎データ

「陸軍諸学校歴史」表紙。ここに収められた「仙台陸軍教導学校歴史」によって、昭和13年の陸軍予備士官学校開設の具体的経緯がはじめて明らかになる。[第八卷]

明治・大正・昭和、徴兵制の時代にあって、公教育の大きな柱であった士官養成教育。德育を重視し、第二次大戦における士官不足の時期を除き少数精銳を目指したエリート教育を見ずして、近代日本の学校教育を語りなく見通すことはできない。

統帥権だけが問題なのか？ 特別攻撃隊に全てを収斂させていいのか？ 今立ち上がる、軍隊教育から照らした新しい日本近代の仮説と検証！



陸軍士官学校の開闢

★陸軍士官学校の風景
「陸軍士官学校生徒及学生心得」付図。予科自習室設置機の物品装置規定。「区隊取締生徒ノ標識」を置く所まで記されている。〔第五卷〕

★陸軍士官教育の根幹

陸軍教育の改革は、永田鉄山の起草といわれる「軍隊教育令」(大正二年版(右))と、その後大幅に改定された昭和八年版(左)、それぞれの綱領部分。例えは、大正二年版にあった、「悦シテ任務ニ務ルル…大和魂」は、「一年死國ニ報ユル…武人ノ本領」に変わっている。[第五卷]

軍隊教育令 第一部

第一 軍隊教育ノ目的ハ將兵ヲ訓練シテ百戰必勝克ク
宏猷ヲ扶翼スベキ軍隊ヲ練成スルニ在リ而シテ此ノ目
的達成ノ爲緊要缺クベカラザル要素ハ堅確ナル軍人精
神竝ニ嚴肅ナル軍紀タリ故ニ軍隊教育ハ此ノ要素ヲ涵

一 軍隊教育ノ目的ハ軍人及軍隊ヲ訓練シテ戰爭ノ任ニ當ラシムルニ在リ而シテ戰爭ノ爲緊要顧クヘカラサル要素ハ堅確ナル軍人精神竝嚴肅ナル軍紀エリ故ニ軍隊教育ハ此要素ヲ涵養スルナ以テ主眼トス
夫レ生ナ喪ヲ義ナ取り恥ナ知リ名ナ惜ミ責任ナ重シシ艱苦ニ堪ヘ奮テ國難ニ赴キ悅シテ任務ニ難ルルハ軍人ノ特性ニシテ我國民ノ古來繼承尊重セル
大和魂ナリ故ニ軍隊教育ニ於テハ此特有ノ資性ナ
砥礪擴充シ以テ事實上ニ其成果ヲ發揮セシメサル

であり、精神のエリート教育である。

陸軍大学校授業内容											
〔昭和十一年度〕陸軍大学校授業予定計画表より、〔昭和十一年度第二学年校内授業予定計画表〕。ソビエト及び中国をかなり強く意識した編成で、逆に「謀報宣伝・諜略」は授業回数が少ない。第一～三学年授業予定計画表及び授業分担割表の4点が揃っているのはこの年度だけで、全体像を見るための貴重な史料となっている。〔第七卷〕											
附表第六集二											
〔昭和十一年度第二学年校内授業予定計画表〕											
〔昭和十一年度第二学年校内授業予定計画表〕											

陸軍大学校授業内容											
〔昭和十一年度〕陸軍大学校授業予定計画表より、〔昭和十一年度第二学年校内授業予定計画表〕。ソビエト及び中国をかなり強く意識した編成で、逆に「謀報宣伝・諜略」は授業回数が少ない。第一～三学年授業予定計画表及び授業分担割表の4点が揃っているのはこの年度だけで、全体像を見るための貴重な史料となっている。〔第七卷〕											
附表第六集二											
〔昭和十一年度第二学年校内授業予定計画表〕											
〔昭和十一年度第二学年校内授業予定計画表〕											

軍隊教育の二大主柱、無形の教育(精神教育)と有形の教育(各個教練から演習まで)の成立と変遷を一望する史料群

〈収録史料一覧〉

★第一巻 陸軍幼年学校(一)

●明治別記第十一卷 陸軍教育史 陸軍中央地方幼年学校教育之部(明治三～四十五年)●大正五年六月 陸軍中央幼年学校条例／陸軍地方幼年学校条例／陸軍幼年学校教育綱領／陸軍中央幼年学校本科教則／陸軍中央幼年学校予科及陸軍地方幼年学校教則

★第二巻 陸軍幼年学校(二)

●自明治三十年六月至昭和三年三月三十一日 広島陸軍幼年学校歴史●自昭和十一年四月一日至昭和二十年九月十日 広島陸軍幼年学校歴史

★第三巻 陸軍幼年学校(三)

●自明治三十年五月一六日至大正十二年三月三十一日 名古屋陸軍幼年学校歴史●自昭和十四年四月一日至昭和二十年八月二十日 名古屋陸軍幼年学校歴史

★第四巻 陸軍幼年学校(四)

●大正六年六月 訓育提要 全(陸軍中央幼年学校予科川及陸軍地方幼年学校川)●昭和二年 訓育提要 全(陸軍幼年学校)●昭和十五年改訂 訓育提要(陸軍幼年学校)

★第五巻 陸軍士官学校(一)

●大正二年二月五日、軍令陸第二一号 軍隊教育令●大正二年三月、偕行社記事第四四五号附録 軍隊教育令ニ閣スル教育総監部本部長並各兵監講話摘要●昭和十八年十一月十日改正、軍令陸第二一号 軍隊教育令 第一部・第二部●昭和十二年四月七日、勅令第一一〇号／昭和十二年九月三十日、勅令第五五六六号 陸軍士官学校校令●昭和十二年四月七日、教庶六三二号 陸軍士官学校教育綱領・教則●昭和十二年四月 陸軍予科士官学校校令・教育綱領・仮教則●昭和十三年十二月十日、航總教發第三号 陸軍航空士官学校教育綱領●昭和十六年 陸軍航空士官学校生徒心得綱領●陸軍特別操縦見習士官志願心得●昭和三年改訂 服務提要 全●昭和十八年五月 陸軍予科士官学校教官必携●昭和五年四月改正 陸軍士官学校生徒及学生心得

★第六巻 陸軍士官学校(二)

●昭和十一年三月 予科生徒用 武教入門●昭和十七年三月 生徒訓育の実際●昭和十三年四月、偕行社記事第七六三号 陸軍士官学校派遣前の士官候補生教育に就て●昭和十五年四月、第七〇八号 教育学 全●昭和十八年改訂 軍制学教程卷一●昭和十九年改訂 軍制学教程 卷二●昭和十七年十二月、教庶四〇三七号 陸軍予科士官学校用 教育学教程 卷一●昭和十八年六月十四日、教庶第二二七八号 陸軍予科士官学校用 教育学教程 卷二●昭和十三年九月二十九日、軍令陸第十九号 作戰要務令 第一部・第二部●昭和二十年四月二十日 國土決戦教令

★第七巻 陸軍大学校

●明治別記第八卷 陸軍教育史 陸軍大学校之部(自明治十五年至四十五年)●明治四十年六月改訂 陸軍大学校教育綱領・行務細則●昭和四年九月 統帥参考書草案第三案其一 第一編一般統帥(会戦ヲ除く)／統帥参考書草案第三案其二 第八章会戦●昭和十一年度 陸軍大学校授業予定計画表●昭和十二年 陸軍大学校卒業式参考書

★第八巻 陸軍予備士官学校・陸軍少年兵教育

●陸軍諸学校歴史 仙台陸軍教導学校／陸軍予備士官学校／豊橋予備士官学校／仙台陸軍幼年学校●昭和十三年三月二十五日、勅令第一三九号 陸軍予備士官学校令●昭和十四年九月、教密第一三八九号 陸軍予備士官学校及陸軍諸学校幹部候補生隊教育綱領●昭和十八年編纂 幹部候補生戰術教程(歩兵用)・同附録●昭和二十年八月三十日調製 陸軍諸学校狀況説明書 豊橋・前橋陸軍予備士官学校狀況説明書／陸軍習志野学校狀況説明書／陸軍軍械重兵学校狀況説明書／陸軍通信兵学校狀況説明書●昭和七年一月二十八日 陸軍工科学校教則●昭和十八年四月 少年飛行兵及生徒心得●昭和二十年九月五日 陸軍少年戦車兵学校狀況説明書

★第九巻 海軍兵学校

●大正九年十二月一日、達二二八 軍隊教育規則●大正九年十月八日 海兵团練習部教育綱領●昭和十五年一月八日改正、達八 海兵团練習部教育綱領●大正八年七月 訓育提要●自大正七年十二月至九年十一月 鈴木貫太郎海軍兵学校校長訓辭集 第一～四八篇●自大正十二年四月至十四年九月 谷口尚真海軍兵学校校長訓辭集(附聖詔集) 第一～三篇●主計会報告第一五九号別冊 我海軍の生徒教育●昭和十一年一月、青年士官教育資料 青年士官ノ躰ニ就イテ●昭和十五年十二月 軍隊教育学教科書

★第十巻 海軍大学校

●海軍大学校官制・海軍大学校条例・海軍大学校学生志願者心得●海軍大学校諸例則●明治三十六年十二月十二日、教本一〇一七 海軍大学校教育綱領●明治四十年六月八日、官房機密二四五〇三 海軍大学校教育綱領●明治四十二年十月改定 海軍兵棋及図上演習規則●昭和六年十一月 海軍大学校第三十五回卒業式参考書●昭和十年十月 海軍大学校第三十九回卒業式参考書●昭和九年、軍令部機密二五一 海戦要務例(写)●大正三年二月一日、海軍大学校講究録 第八十一号

★第十一巻 海軍予備学生教育

●海軍予備員条例・海軍予備員令・同施行細則・同施行規則●海軍航空予備学生規則・海軍航空予備学生教育綱領●昭和十六年十月二十五日 海軍省告示第三四号●昭和十六年十月二十一日、省令第三七号 海軍予備学生規則●昭和十八年九月 海軍予備学生心得●昭和十九年二月 海軍予備学生(一般)服務綱要●昭和十九年十月 予備学生陸上防空参考書 兵備品●昭和十九年九月一日、練習聯空總隊教官第一三二号 飛行專修予備学生、生徒用 分隊士勤務参考書●昭和十九年二月二十日 戰地勤務初級主計科士官勤務参考書第三編 金銭經理附錄 給与諸表●昭和二十年二月二十七日、館砲校秘第二〇号ノ二〇 夜間戦闘ノ参考●昭和二十年三月十五日、館砲校軍極秘第二〇号ノ七 対戦車戦闘の参考(改訂)

★第十二巻 海軍飛行予科練習生教育

●海軍志願兵令・海軍志願兵徵募細則・海軍志願兵令施行規則●昭和十一年三月 精神教育参考資料●昭和十四年六月 甲種第一期生トシテ第二期生以下ニ告グル辞 其一